

令和2年度

小学校 国語科

～一人一台端末を使用した授業づくり～



徳島県教育委員会

1

文部科学省

各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について

令和2年9月

文部科学省

国語科の指導におけるICTの活用について

2

1. 学習指導要領上の位置づけとICT活用のイメージ

2. ICTを活用した授業事例

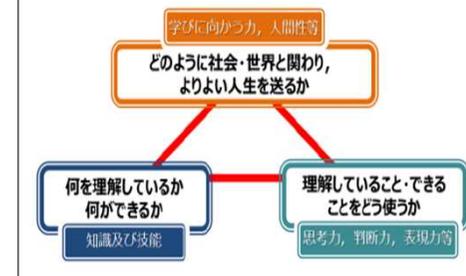
- ・「一人一台端末」活用事例
- ・その他の活用事例(領域ごとに)

3

各教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方

新学習指導要領に基づき、**資質・能力の三つの柱をバランスよく育成**するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる**ことが重要。

資質・能力の三つの柱



4

各教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方

【留意点】

○資質・能力の育成により効果的な場合にICTを活用する。

○限られた学習時間を効率的に運用する観点からもICTを活用する。

5

1. 学習指導要領上の位置付け

新学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校を通じて、国語科におけるICT活用について以下のように規定している。なお、ICT活用はあくまで手段であり、活用に当たっては、育成を目指す資質・能力との関連を明確にすることが重要である。

(小学校の例) ※中・高の規定も小と同様

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次のとおり取り扱うこと。

(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータやネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導に努めるよう工夫すること。

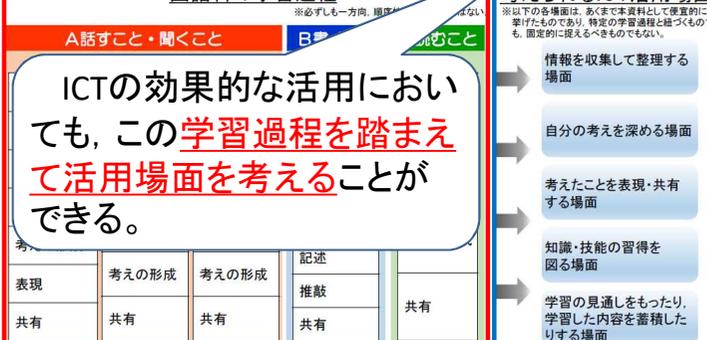
ICT活用はあくまで手段であり、活用に当たっては、育成を目指す資質・能力の関連を明確にすることが重要である。

※加えて、いくつかの指導事項や言語活動例では、学習指導要領やその解説でICT活用について明示的に示している。(参考:『教育の情報化に関する手引き(追補版)』(令和2年6月 文部科学省)巻末資料「学習指導要領における教育の情報化に関する主な記述」)

国語科における「学習過程」とICTの活用場面

新学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。ICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができる。

国語科の学習過程



考えられるICT活用場面



1. 学習指導要領上の位置づけとICT活用のイメージ

2. ICTを活用した授業事例

- ・「一人一台端末」活用事例
- ・その他の活用事例(領域ごとに)

8

活用事例(話すこと・聞くこと)

考えたことを表現・共有する場面

小学校 第5学年及び第6学年「A話すこと・聞くこと」
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

〈活用の場面〉

○提案の練習をお互いに見たり聞いたりする活動を通して、提案する物の魅力が相手に伝わるように表現の工夫を考える。

〈ICT活用例〉

・タブレット型端末等を使って、班員同士で提案の練習の様子を撮影し合い、その動画を実際に見ながら、互いの提案の中での実物の提示や実演の仕方の良さや課題等を伝え合う。
・動画を使って、各個人で振り返ったり、教師が全体指導の材料として活用したりする。

※単元の導入として、関連する以前の単元(前学年までのものを含む。)での自身の動画を見ながら振り返り、表現の工夫を考えることも考えられる。



自分たちで作ったおもちゃの魅力が伝わるよ物を使って提案する練習の様子

活用事例①(話すこと・聞くこと)の実際

タブレット型端末を使って音読練習を録画して練習に活用

繰り返し練習, 考えたことを表現・共有

【利点】

- ・自分のめあてにそって、自分のペースで何度も練習ができる。
- ・自分の表現を客観的に見たり聞いたりすることができる。
- ・授業後に、教師が子供一人一人の評価をすることができる。

10

活用事例①(書くこと)

情報を収集して整理する場面

小学校 第5学年及び第6学年「B書くこと」

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

〈活用の場面〉

○身近な題材から決めたテーマを基に、読み手が納得するように引用したり、データを加えたりしながら、意見文を書く。

〈ICT活用例〉

・インターネットを活用するなどして集めた、関連する情報を用いて、意見文を書く。

※国語科の学習であることに鑑み、図表やグラフを作成する活動に過度に偏らないよう留意しつつ、表計算ソフトを活用して身近なデータを基にグラフをつくること等も考えられる。

・単元の途中で、学級の中で工夫が見られる例を紹介しながら、教師が全体指導する。

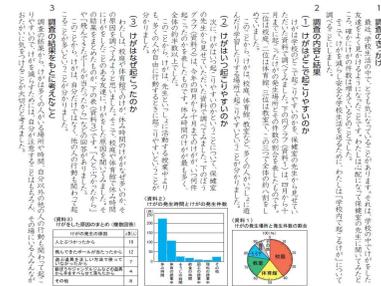


インターネットを活用して関連する情報を集めている様子

11

活用事例①(書くこと)

タブレット型端末を使って情報を収集し、まとめる。



情報を収集・整理

【利点】

- ・構成を考えて修正することができる。
- ・協働作業でまとめることが容易。

12

活用事例②(書くこと)

タブレット型端末で撮影したもの(素材)を詩や俳句の題材として活用する。

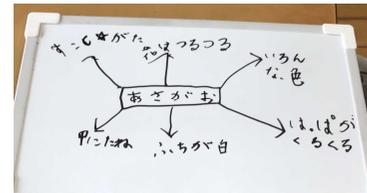


活用事例②(書くこと)の実際

2年



タブレット型端末で撮影。



タブレット型端末で撮影した画像を見ながら見つけたことをホワイトボードに書き込んでいく。



自分の撮影した画像に文章を書いて、発表する。(案1)

アサガオのかんざつを
しました。
よく見てみると、つる
が、くるくるしていてふ
しぎでした。
花は、いろいろな色が
あって、ふちは、白色で
す。さわってみると、つる
つるして見えました。花を
上から見ると、ほしの
ような形に見えました。
大はっけんです。あした
もかんざつしたいです。



自分の撮影した画像に言葉をつけて、発表する。(案2)

つるつる
くるくる
いろいろな色で
楽しいな
花の中に
おほしさを
見つけたよ

【利点】
・何度もやり直せるので取り掛かりやすい。
・記録に残るので、試行錯誤しやすい。

繰り返し試行錯誤

活用事例①(読むこと)
自分の考えたことを深める場面

小学校 第3学年及び第4学年「C読むこと」
 ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

〈活用の場面〉
 ○説明的な文章を読み、要約に必要な語や文を見付ける。

〈ICT活用例〉

- ・タブレット型端末等を活用し、全文を一覧できるようにした説明的な文章について、内容の中心だと考えた語や文に画面上でマーカーを引き、文章全体の中で自分が選んだものの場所を確認する。また、自分が選んだものと、友達が選んだものとの相違点や共通点を視覚的に捉える。
- ・それらの語や文を選んだ理由について、友達と交流し、自分がマーカーを引いたものを再検討し、必要に応じて、画面上でマーカーを引き直す。



画面上で説明的な文章にマーカーを引いている様子

17

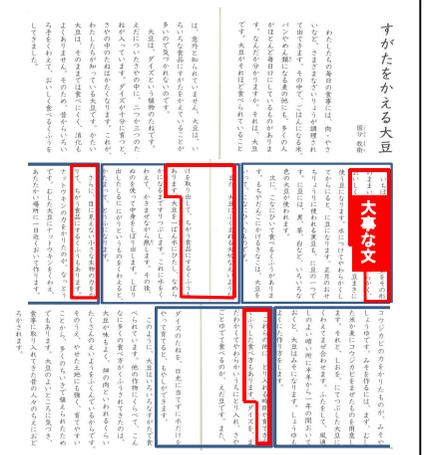
活用事例①(読むこと)

考えを深める

【利点】

- ・色を変えながら書き込むことができるため視覚で捉え、思考が整理しやすい。
- ・他者との意見を比較しやすい。

すがたをかえる大豆



18

活用事例②(読むこと)
考えたことを共有する場面

意見・考えを書き込んだスライドや、書き込みをしたデジタル教科書・教材を映す。



20

表現・共有

【利点】

- ・学習課題に対する互いの状況を把握しながら作業することができる。
- ・意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。
- ・互いの考えを視覚的に共有することができる。
- ・グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。
- ・一度に全員の考えが分かり、自分との共通点や相違点を比べることができる。

20

学習の目的を明確にもち、
創意工夫を生かした
新たなまなびのツールの効果的な活用で、
学習指導のいっそうの充実を